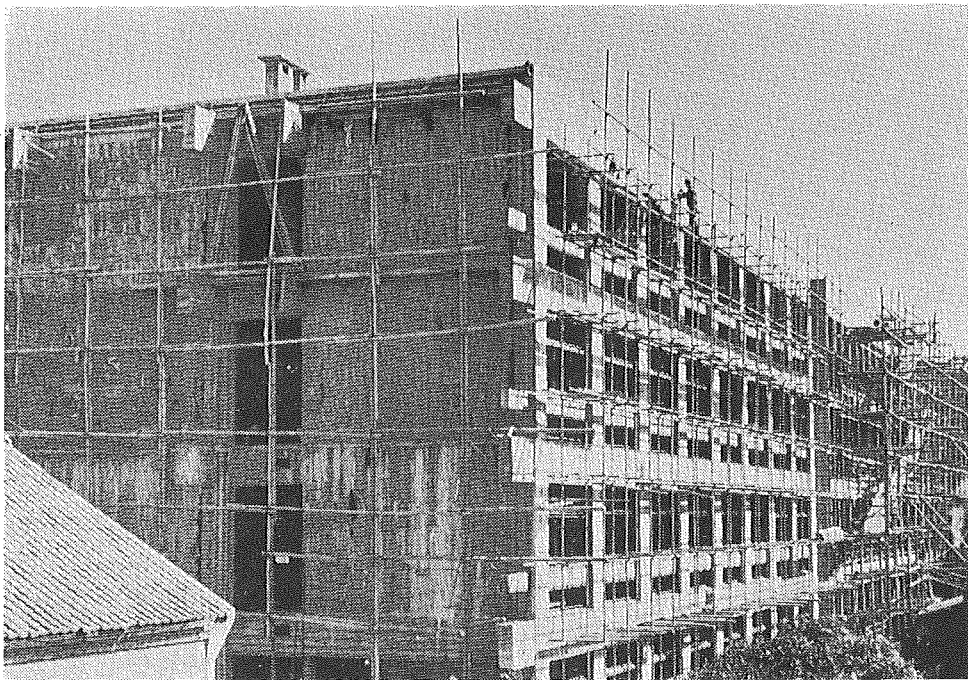


洛友会々報

京都市左京区吉田本町
京都大学工学部
電気工学科教室内
洛友会



左側は新築中の電気工学第二学科の新館の半部であります。
右側は関西電力株式会社の寄附(老健巴)による関西記念館(電気綜合館)であります。

随感

日本語を上手に教えよう

東京や京都には日本語学校というものがある。日本在住の外人宣教師たちに日本語を教えるためのものらしい。どういふ先生がどういふ方法で教えているのか知らないが相当の実績を上げているようである。アメリカでの日本語教育がその合理的教授法によって中々能率よく運ばれていることから考えると、これらの日本語学校の教授法も多分それに準拠しているのではないかと思われる。

ところが日本で日本人教師が外国留学生に日本語を教える場合、その非能率的なことが、しばしば問題になるのは一体どうしたわけなのであろうか。私たちは旧制の中学と高等学校で十年近くも英語を学びながら読み書き以外には今日何の役にも立たぬ事実から想像すると、もしあのようなやり方で日本語を教えているとしたら、とかくの批評が起ころのは当然のことであろう。

日本語は外人にとっては、極特別の人以外には昔は使えない特殊の言葉で、しかもはなはだしくむずかしいものとして、むしろ敬遠されて来た。ところが最近日本の学術文化価値が高く評価されるようになってから、来り学ぶ者もふえて来るし、また日本研究も盛んになったため、

鳥養利三郎

日本語を学ぼうとする外国人がなかなか多くなった。われわれも、こちらで外人に対する日本語教授法を研究合理化して、正しい日本語をもつと能率よく教えるために、力を入れるべきではあるまいか、日本人に対する英語教授法の研究は近く京大で始められると聞いているが、それと同じ意味において、外人に対する日本語教授法もわれわれ日本人の手で研究しなければならぬ大切な課題であらうと思う。

英語を学ぶための書物は山程出ている。だのに、最近私は外国人のための日本語辞書さえまだできていないというのを聞いて、驚いている次第である。これでは日本語を学びたいなら勝手に習えといわんばかりに、ほったらかしているといわれてもいたし方あるまい。

最近東京外国語大学の釘本教授、国際学友会の金沢理事らの奔走により、全国の語学教育関係者が集って、外国人に対する日本語学会というのを設立して、日本語教育に奉仕しようということになったのは喜ばしいことである。この学会は先づ外人のための辞書を編集する企画をたてている。私は語学教育には全くの門外漢であるが、後進国を歩いた時、彼等が如何に日本に学びたい希望を持っているか、また如何に日本語のむ

つかしさに苦しんでいるかをつぶさに見て来ただけに、この学会に大きな期待を寄せている。

それにしても人世というものはふしぎなもので、金沢君と私の回りあいには昔話がある。昭和のはじめ私は一夏を北支旅行に費したが、万里の長城を見るため北京から八達嶺に出かける時、たまたま二人の東大学生を行を共にした。その一人が即ち金沢君であった。それきり十数年間合わなかったが、戦争中東方の留学生をつれて久しぶりに私を訪れて来た。

相当苦しかった当時の旅の思い出を語り合ったことはいうまでもない。同君は大学卒業と同時に国際学友会に入り、一生を南方留学生と共に過ごそうと決意されたから既に三十余年、手にかけて留学生は数百名に上るのであろう。留学生の父として彼等の信望の的となっている。

私は同君の徹底した人道愛と国際奉仕に敬服して、ずっと行き来をつづけて来たが、今度またはからずも日本語学会で役員として仕事を共にしようということになった。因縁というか、どうというか、深いものを感ずる。

これでよいだろうか

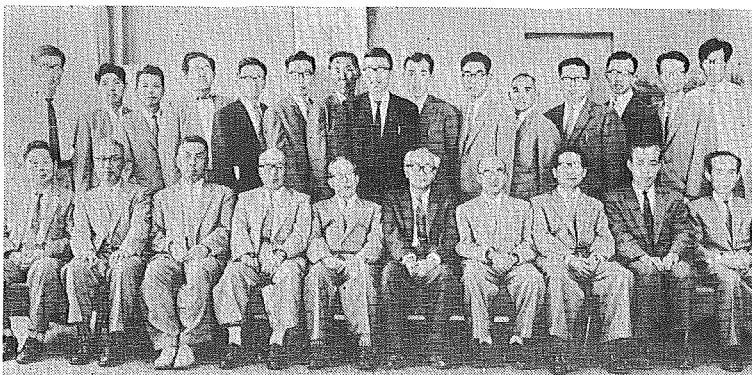
仲間中では私は旅の多い方であるが、運がよいのか取り立てていふ程の交通事故にあってたことはない。強いていえば十年前に、ハワイからウェーキ島への途中、故障を生じて引きかえし、別の飛行機に乗りかえ

洛友会四国支部第七回 総会記事

瀬戸内が誇る天下の名勝「屋島」と名園「栗林公園」を控えた高松に、本部長鳥養先生と副会長林重憲先生の御来駕を得て、六月三十日午後六時より第一生命ビル九階「ニュー高松」において、昭和三十七年度支部総会ならびに懇親会を開催した。

支部支部長の挨拶に始まり、鳥養本部長の御挨拶、林先生の教室の近況御報告に一同なつかしく耳を傾けた。

三十六年度会務、会計報告のあと任期満了にともなう支部役員の変更も満場一致拍手のうちに承認されてなごやかに総会を終了し、時を移さず懇親会に移った。



当日の支部会員の参加者二十四人。四国各地から参集し、思い出の懐旧談に、近況報告の交換に、あるいは談論風発し、あるいは爆笑併発し、時のたつのも忘れるほど。初夏の夕を若き日のエネルギーもかきやとばかりに再現してなかなかの感況であった。やがてお腹も満ちたりて、和気あいあいのうちに再会を約して散会した。

なお例年お元気なお顔をみせられる本部山村幹事が、本年は御健康の都合でお見えにならず大変残念でした。御健康の回復の一日も早からんことを祈り、来年は必ずや御元気で御来島頂くよう楽しみにしてお待ちすることとした。

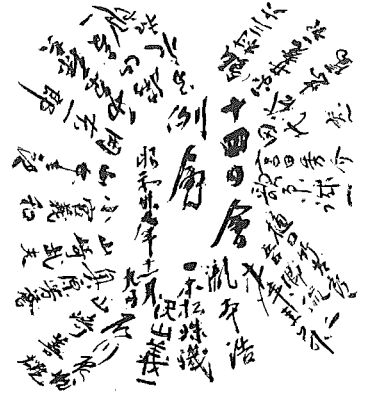
- 役員
- 支部長 渡部兼雄
 - 副支部長 北脇保喜
 - 幹事 徳岡 毅(新任)
 - 松井貞信 藤本悟郎(重任)
 - 仁田工吉 小倉裕三
 - 総会出席者 鳥養先生、林先生、渡部支部長ほか記念写真、寄せ書のとおり。(井上博文記)

東京一四日会

第三十七回の東京十四日会を昭和三十七年十一月九日三菱電機高輪荘で催しました。

折よく九州から宮田秀介氏、関西からは木津主蔵、脇山俊一の両氏が上京中でありました。総勢二十二人が出席し、近來のにぎやかな会になりました。

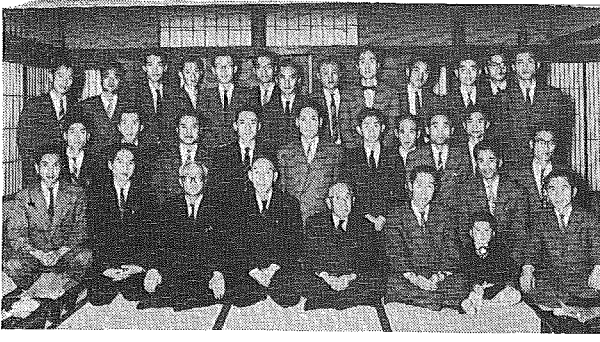
席上で来る五月に予定している十四日会の九州での会合の件について、幹事の宮田君より御説明があり一同、又一段と大きな期待をもつことが出来ました。



昭和二十七年卒同窓会

又此の席上、一本松珠璣氏が同日開かれた日本原子力発電株式会社の役員会で会社の社長に議決された事、又山崎善雄氏が此又同日藍綬褒章を拝受された事。

次いで西原藤吉氏が先日の電気倶楽部の開基大会で優勝された事。等何れも芽出度い事が披露され一同歡を尽して会を終りました。



楽謡会

卒業後十周年に当り恩師を囲む同窓会を五月五日祇園中村楼にて開催しました。

御出席頂きました先生および参加卒業生は写真のごとくであります。

東京支部楽謡会は三十六年十一月に発足致しました。三十七年度には左記三回開催致しました。

第二回はバブコック日立楠本氏

（六七卒）の御厚意により日立の大崎寮に於て開催、第三回、第四回は三菱電機の石川氏（六一五卒）の御厚意により三菱の大崎寮に於て開催致しました。

会合は予想以上の盛況で思い出話にたちまち時間が過ぎてしまい、次回（十五周年）の再会を約して散会しました。

- 第二回(三三三) 第三回(三三三)
- (シテ)
- 忠度 乙葉(啓) 加茂 石川(弘)
 - 東北 石川(弘) 屋島 樋口
 - 藤戸 中谷 杜若 中谷(操)
 - 小袖 樋口 葵上 中谷
 - 高砂 石川(弘) 舟弁慶 石川(辰)
- 第四回(三三三)
- 山姥 (石川辰雄)
 - 仕舞
 - 中谷 潔(大四) 真崎 尚忠(大四)
 - 石川 辰雄(六一五) 石川 弘文(昭九)
 - 樋口竹太助(六一四)
 - 乙葉 真一(六七)
 - 以上六名

訃音



今後新人の御入会をお待ちして居ります。

尚石川辰雄氏は来る四月二十九日觀世の能舞台に於て能舟弁慶を舞はれる事になって居ります。

鈴木貫一君(明四二卒) わが国電力界の先駆者であった同君は一月二十二日に薬石その効なく御逝去になりました。茲に謹んで哀悼の意を表します。